教育実習指導を通して学び続ける教師
―管理職，教育実習生との相互作用から得られるものとは―

背　景

変化の激しい現代社会において，「学び続ける教師像」が提唱され，教師が自律的に学ぶ姿勢をもち，職能を持続的に磨いていく必要性が示されている。一方で，学校現場の多忙化等の影響により，自ら研鑽を積み，教師として発達していくための研修時間を確保しにくいことが指摘されている。

こうした状況の中，教師教育研究の文脈では，通常の勤務の中で行う教育実習指導により担当教員が学び，自らの職能に磨きをかけていく可能性が認められている。

研究成果

- 教育実習指導担当教員の実習を通じた学び・発達の様相を説明するリーフレット(令和4年度～8年度)
- 「教育実習指導担当教員として発達するには」：実習指導担当教員向けのハンドブック(令和9年度)
- 「教育実習指導担当教員を支援するには」：管理職向けのハンドブック(令和9年度)
- リーフレットやハンドブックをもとにした研修会や動画の作成(令和9年度)

研究目的

小学校・中学校の教育実習指導担当教員の実習を通じた学びや発達，そしてそれに関わる要因を量的・質的なデータで説明するのと同時に，そのデータを学校現場に位置づけ，そこから有効な支援を現場と共に検討することを研究目的とする。

研究期間：
令和4年~9年度

研究課題

① 指導を通じて教育実習指導担当教員が何をどのように学び，それを職能にどのように意味づけて変容・発達し得るのかについて調査を行う（能力の獲得や発達だけではなく，その中での葛藤や困難にも焦点を当てる）。その際，指導担当教員に影響を与える可能性のある管理職や教育実習生との相互作用にも着目する。

② ①で得られた研究結果を基に，教師が実習指導を通じて発達するために必要な支援について現場と共に検討する。

研究計画

【初年度】
1. 研究①で行う調査に向けての文献研究
2. 管理職経験者に対する教育実習指導に関するインタビュー(予備調査)
3. 1・2をもとにした質問紙調査項目の策定
4. 質問紙調査の試行

【次年度以降】
1. 初年度に作成した質問紙をもとに，令和5年度～令和8年度まで，北海道の小学校，中学校，特別支援学校に在籍する教育実習指導担当教員，管理職，教育実習生を対象とした調査を毎年度実施
2. 1の調査と並行して，実習担当教員や実習生，管理職に対する補足的なインタビュー調査を実施

研究実施体制

■代表
- 半澤礼之准教授(釧路校)

■分担者
- 越川茂樹キャンパス長(釧路校)
- 浅井継悟准教授(釧路校／学校臨床心理専攻)
- 田中雅子准教授(釧路校)
- 星裕准教授(釧路校)

2024年9月現在